

令和5年度の学校評価

本年度の 重点目標	① 安全で安心できる学校づくり ② 個に応じた教育活動の充実 ③ 学校からの発信力の強化		
項目 (担当)	重点目標	具体的な方策	評価結果と課題
小学部	「笑顔あふれる小学部」を目標に、円滑で明るい人間関係や健康で主体的な取り組みを育成するために、学校生活全般を通して、創意工夫をしながら、児童の持っている力を最大限に引き出し将来の生活する力を高めていく。	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶や相手を思いやる気持ちなどの円滑な人間関係や、要求や報告などのコミュニケーション能力の育成を、学校生活全般をとおして支援する。 ・児童一人一人の課題や目標について、保護者や職員間で共通理解を図り、自立活動をはじめとした学校生活全般をとおして、児童自身が課題を理解しながら主体的に身辺処理能力や学習面を向上していくことができるよう支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員自ら挨拶の手本となることで、小学部全体で自発的な挨拶が習慣になってきている。また、部集会での「サンキューチャンピオン」の表彰等でみんなのために頑張った児童に対して評価をし、みんなで感謝の気持ちをもつようにすることで、他の児童への良い刺激となり、主体的に取り組む児童が増えた。今後も将来に向けて自発的な挨拶やお礼、要求や報告などの重要性を全職員で意識し、個々の実態に応じた表現の仕方でのコミュニケーション能力が高められるよう支援していく。 ・学年会やケース会等で個別の課題を検討し、学校生活全般を通して、できる限り体験的な活動を継続的に取り入れる支援を行うなど、個々の目標を達成できるように工夫することで、児童の意欲や集中力が高まり、達成感や成就感を味わいながら主体的に次への取り組みへと広げていくことができた。特に生活面の支援方法については、保護者と日々の連絡帳や懇談会等で共通理解を図ることで、自立活動の時間において効果的な指導を行うことができた。また、必要に応じて支援者会議を行うことで、学校と家庭、事業所等の関係機関が同じ方向性で支援にあたることもできた。
中学部	生徒の実態や特性を把握し、身に付けてほしい力を職員全体で周知して、卒業後の生活を見据えた教育活動に取り組む。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の生徒の課題や目標を、中学部の全職員で共有して、指導者が代わっても、同じ支援を進めることができるようにする。 ・自立活動を中心として、学校生活の様々な活動に楽しく参加して、経験を増やしていく。 ・挨拶や名前を呼ばれたときにしっかりと返事をすることや、友達と協力して物事に取り組むことで、学校生活を楽しく過ごすことができるように支援する。 ・生徒の実態に応じた適切な進路先を話し合い、具体的に本人と保護者に提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業研究を通して ICT の活用を促進した。大きな柱として、研究によって職員の知識向上や興味・関心を高め、そこから各自で工夫し、担当する授業に応用することで、授業の幅を大きく広げることができた。また、新型コロナウイルスが5類に位置付けられたとはいえ、インフルエンザなどの感染症が心配される時期に、密集、密接の環境を避け、画面を共有して、離れた場所でも同じように授業を実施することで、生徒に対する健康面の配慮も行うことができた。 ・個別の教育支援計画を見直し、長期的な視野に立って自立活動の充実を図った。静的活動（手先の巧み性や空間認知を高める取組）と動的活動（体を動かしながら、身体イメージを高める活動）について、教職員が生徒の目標を共通理解し、明確にすることで、充実した活動を行うことができた。その様子は連絡帳等を通じて保護者にも報告し、学校と家庭が互いに連携する意識を高めることができた。

<p>高等部</p>	<p>卒業後の進路を見据えながら生徒個々の働く力、生活する力を伸ばす。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コース別の支援などをおして卒業後の職業生活、社会生活、家庭生活に必要な力を伸ばす。 ・生徒一人一人に対して的確なアセスメントを実施したり、生徒の課題や支援方法を学校、家庭、関係諸機関とで共有したりすることで、実態や特性に応じた生徒指導、進路指導の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業学習やコース別の授業を通して、生徒には卒業後に必要な力は何かなどを具体的に支援することができた。しかし、教員側と生徒、保護者側の思いの不一致で支援方法や内容に難しさを感じることがあった。今後もさらに生徒や保護者、さらには地域も一緒にみんなで生徒一人一人を支援していきたい。 ・今年度は、学校内で特別指導としての案件が二回あった。日々のストレス、思春期からの精神的不安定さや障害特性等からくる生徒一人一人の行動や言動をしっかり受け止めながら寄り添った支援を心がけたい。 ・授業については、ICTを十分に活用し、全校研究も絡めながら日々先生方が工夫して実践することができた。今後も引き続き個々の生徒に合ったアプリ等を活用、工夫しながら授業実践を進めたい。
<p>総務</p>	<p>分掌内での業務に関する作業が効率よく進むようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムや学校だよりなどの作成に関しての手順表を見直し、より効率よく作業が進められるようにする。 ・校内 LAN やグループウェアを活用し、負担が少なく効率よく業務が進められるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・手順表を作成したことで、新しく入ってきた職員や不慣れな職員でも効率よく仕事を勧めることができた。 ・駐車場計画では、改修工事や行事などで急遽の変更があったときにもグループウェアを活用することで全職員に周知することができた。
<p>教務</p>	<p>個に応じた指導や教育活動の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・個に迫った教育活動を組み立て、集団や社会生活に向けた指導、支援の充実を図る。 ・保護者のニーズに合った教育活動の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別懇談の時間を昨年度より延ばした。時間を確保することで、より個に迫った話し合いができ、指導・支援に生かすやすくなった。 ・子どもたちの学習の成果を見学してもらえるように、さおり祭りや授業参観の人数制限を緩和した。 ・文化芸術鑑賞会を開催し、児童生徒が質の高い文化芸術に触れる機会をつくった。
<p>自立活動</p>	<p>職員の専門性を高め、自立活動の指導の充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各部における自立活動の指導の課題等を集約し、助言する。 ・関係する分掌と連携し、必要な情報を交換して、児童生徒へのよりよい支援・指導を目指す。 ・自立活動の全体研修をより充実させる。 ・自立活動ライブラリーの充実と整理を引き続き行うほか、現在自立活動室にある教材・教具についても整理し、職員に情報提供する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校で自立活動に関するアンケートを実施し、各部の課題をまとめた。関係する分掌と検討し、その結果を自立活動委員会で報告した。 ・主に教務部、研修部、教育支援部と連携し、実践教育講座や全体研修といった研修関係を充実させたり、アセスメントの方法やケース会について検討したりして、職員の専門性や職員間の仕事効率の向上を図った。 ・全体研修の内容としては昨年度と大きく変わることはなかったが、多くの職員が好意的に参加した。職員に過度に負担を掛けず実施していくことが今後の課題である。 ・自立活動ライブラリーのデータを印刷して綴じた物を1冊職員室に置いているが、今後は各部に1冊配布し、職員が手に取りやすくする。新しい教材教具が入荷した場合は、今後もグループウェアで随時発信していく。

<p>教育支援</p>	<p>地域のニーズに応じた相談活動等をとおして、特別支援学校のセンター的機能の充実に努める。</p> <p>支援・指導の充実に向け、校内支援体制の向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相談活動において、地域の小中学校及び高等学校の対象児童生徒の特性や教育的ニーズを把握し、効果的な支援方法について検討し、情報提供する。 ・様々な課題やニーズに対応できるよう、各校及び本校の特別支援教育コーディネーターのスキルアップに努める。 ・地域の関係機関と連携し、本校の児童生徒の様々な課題に応じた支援に取り組む。 ・支援会議が必要なケースへの呼びかけやスクールカウンセラー等の活用を提案を行い、児童生徒への適切な支援体制を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回相談や発達障害児等支援・指導検討会において、各校のニーズに合わせて特に学習面、行動面、生活面についての支援方法を提案し、各校のコーディネーターと一緒に検討した。また、就労や自立活動、特別支援教育についての情報提供にも努めた。 ・はあと相談では、幼児、児童の保護者や学校関係からの相談に対応した。今後も様々なケースの相談に対応できるよう、研修や分掌内の事例検討により、スキルアップに努めたい。 ・校内の職員に向け、グループウェアを活用して、特別支援教育に関する情報提供を行った。分掌内でも様々な情報収集を行い、継続して発信していきたい。 ・児童生徒の実態や家庭の課題等を把握し、支援会議やスクールカウンセラー等の活用を提案し、実施した。実施後の状況把握や支援方法の改善等について、継続してフォローしていくことが課題である。年々、スクールカウンセラーの活用が増えているので、連絡・調整がスムーズに行えるように努めた。今後もさらにスムーズな運営を検討し、実施していく。
<p>研 修</p>	<p>全職員が研究研修に対する意識を高め、自己研鑽に努められるようにする。 研究研修で得た知識を日々の指導に還元できるようにする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究で「ICTを効果的に活用した授業実践」に取り組み、ICT教育についての知識を深める。 ・校外研修だけでなく、eラーニング研修など校内で受講できる研修について推進する。 ・職員のニーズに合った研修内容を検討し、全校研修に取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全校研究では、授業実践を通してICT活用を促進することができた。反省を基に授業実践シートや来年度の研究の進め方を見直し、引き続き職員の意識向上をめざす。 ・グループウェアを通して、研修案内だけではなく、研究会の資料や本校会場研修の様子等を伝達した。今後も積極的に案内を流し、様々な研修・研究への関心を高め、自己研鑽につなげられるようにする。 ・今年度新たに、外部講師によるロイロノート研修やスクールロイヤーによる教員研修を行った。毎年実施している研修においても、各分掌主任と連携し、内容を充実させることができた。
<p>図 書</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒、職員が利用しやすい図書室環境の整備と、児童生徒の読書活動のきっかけ作りに努める。 ・仕事内容の改善と効率化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・蔵書の配架方法の見直しと改善を行う。 ・他の分掌会や教科会に依頼して除籍本の選定を行う。 ・様々な場面で本と親しめるような読書教材の提供や本の紹介を継続する。 ・図書室行事の内容を工夫し、他の分掌等と連携して充実に図る。 ・図書館報や図書室行事の内容・時期・頻度等の見直しを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員も利用しやすい図書室環境の整備という観点から、閲覧頻度の高い蔵書を新たにシリーズ本としてまとめて配架した。 ・昨年度から取り組んでいる除籍本選定を、長期休業中を利用して年2回行い、ふだん図書室を利用しない職員も図書室の蔵書に触れる機会を作ることができた。 ・プレゼンテーションソフトを利用した読み聞かせ教材と塗り絵を整備し、一覧表を提示して利用し易くしたり、授業に活用できる本の紹介を校内ネットワークを利用して行ったりした。 ・読書週間では、テーマ本と給食のメニューとを関連付けた企画を行い、児童生徒に楽しみながら本に親しむきっかけを作ることができた。 ・図書館報の発行回数や紹介本・読書教材の作成数を見直し、職員の負担軽減に努めた。 ・来年度は、本を利用した授業の支援を充実させるとともに、さらに分掌業務の合理化を図っていくことが課題である。

<p>情報教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新設したホームページやネットワーク機器の有効的な活用を促進する。 ・児童生徒の ICT 活用を促進できるよう、指導者への活用研修を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの更新については、発信する内容や方法を情報化推進委員会で改めて精査・整理し、更新手続きも含め更新の在り方を具体化する。 ・情報教育部で研修資料や講座を実施することに加え、専門研修に関する情報提供も積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ更新については、次年度の計画や更新内容、またその方法について計画的に進められるよう他校の情報を収集し、本校の状況に合わせて整理した。ホームページについては学校情報の発信としての重要な位置を占めるため、在り方について学校や社会のニーズを踏まえ、適宜検討する必要がある。 ・ロイロ社による専門研修や情報通信支援員による他校での実践に関する事例集の作成など、研修機会を設定できた。多忙化解消や授業づくりに結び付く観点から、ICT 活用促進策や支援は今後も重要と考える。
<p>生徒指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・防犯対策の充実 ・生活の手引きの見直し、全職員で共通理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入時の対応マニュアルを見直し、職員間で共有する。 ・時代にあった生活の手引き(校則)になっているか見直しをする。見直しをした手引きを、部会などで共通理解をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者侵入防止の3段階のチェック体制を追加したことで、本校の対応マニュアルの見直しがほぼ終了した。今後、全職員にマニュアルを提示し、共有できるようにしていく。各教室へのフローチャートの掲示、廊下へのホイッスル、防犯ブザーの設置も進めていく。 ・職員間での生活の手引きの見直しが終了した。次年度からは、保護者からの意見を聞きながら見直しをし、生活の手引きを作成していく。
<p>保 健</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の見直しを図る。 ・学校内を清潔に保つことができるように清掃分担や掃除道具を整える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症法上5類に引き下がる時、特別教室等の人数制限の緩和や学校活動における制限の緩和を行う。 ・清掃分担の割り振りを見直し、一部の職員に負担がかからないように計画をする。 ・計画的に劣化した掃除道具を新しい物に交換していけるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症対策の見直しを行い、学校活動における制限を緩和することができた。一方で給食指導の緩和を図ったが、以前の対応が定着したままとなっているため、再度分かりやすく周知していきたい。また、感染症の予防に向けた対策は引き続き徹底していけるよう協力を呼びかけていきたい。 ・長寿命化工事による年度途中の教室移動の際、清掃箇所の変更や分担の見直しが必要となり、対応の変更をお願いすることとなった。 ・箒やちりとり等教室の掃除道具で交換が必要なものを集約し、交換を行った。予算に限りがあるため全ての要望に応えることができなかったが、今後も優先順位を付け、必要とするものから整えていけるようにしていく。